

(別記)

令和2年度山梨市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積(1,275ha)に占める主食用米面積(10.0ha)の割合が約0.7%で、転作作物に占める果樹の面積が多く、担い手への集積が進んでいる。

しかしながら、主食用米の需要が減少する中で、他の作物の作付に転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

また、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られる中、水稻作付面積の維持が課題となっている。

2 作物ごとの取組方針等

市内の約124haの水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底によって米の主産地としての地位を確保する。

また、前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

イ 米粉用米

ウ 新市場開拓用米

エ WCS用稲

オ 加工用米

カ 備蓄米

(3) 麦、大豆、飼料作物

産地交付金を活用しつつ、農地の利用集積や低コスト生産体制を強化し、生産を維持・拡大を進めていき、高品質・安定生産技術の普及による作付面積の拡大を推進する。

(4) そば、なたね

(5) 高収益作物(園芸作物等)

産地交付金を活用しつつ、農地の利用集積や低コスト生産体制を支援し、生産の維持・拡大を図る。また、高品質・安定生産技術の普及等による作付面積の拡大を推進する。

(6) 畑地化の推進

産地交付金を活用しつつ、地域の生産動向等を踏まえて水田の畑地化を図る。
畑地化にあたっては、農地の集積や高品質・安定生産技術の普及等により、生産の維持・増進、作付面積の拡大を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	10.0	10.0	10.0
飼料用米			
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS用稲			
加工用米			
備蓄米			
麦			
大豆	1.0	1.0	1.0
飼料作物			
そば			
なたね			
その他地域振興作物	97.3	97.9	98.5
・野菜	6.1	6.3	6.5
・花き・花木	0.4	0.5	0.6
・果樹	90.8	91.1	91.4

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
				(○年度)	(○年度)
				(○年度)	(○年度)

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

なし